

## 私の秋田弁ライフ (3)

東京秋工会 副会長  
地主 勝己  
(昭和37年土木科卒)



昭和43年12月住宅公団南多摩地区B-3整地工事のため榎原谷戸に事務所を作り、炊事のおばさんが見つかるまで社員が当番で食事の支度をする事になりました。私の当番の日に味噌汁の味噌がなくなり、農道の向かいにある農家に「味噌が無くなったので明日返しますので貸してもらえますか」と標準語で話しました。「それは大変ね、もし良かったらおばさんが見つかるまで私がお手伝いしましょうか」と言いながら味噌を貸してくれました。さっそく上司に話、次の日から来ていただきました。

そのころの多摩村の道は砂利道で、電話は農協に交換手がいり有線を取り次いでもらい、バスは車掌がいて、それこそ吉幾三の「おら東京さ行くだ」の世界でした。

やや暫くして毎朝綺麗なお嬢様が向かいの農家から出てバスに乗って行くのに気が付きました。私は炊事のおばさん(後日義理のお姉さん)に「毎日おめさんの家から綺麗な人が出て行くけど、どさ勤めでいらいだ」とたずねました。「ああ、あれは私の義理の妹で漫画家として集英社に行っているんだ」とのことでした。縁とは不思議なもので集英社の「りぼん」の編集者と私の職場の上司が親戚で、やがて二人はお付き合いすることになりました。当時の私は給料の殆んどを飲んでいました。おかげで車を買う金も無くデートはいつも同僚の車を借りてあちこちへ出かけました。ある日八王子の16号線の交差点の真ん中で借りたボロ車が動かなくなりました、私は交差点の真中に立ち四方に向かって手招きしこの車を押してくれとお願いしました。あとで分かったのですがこの事が彼女の結婚を決意させる一因になったとのことでした。

B-3地区では榎原防災ダムを先ず造りその後整地工事を始める工程でした。防災ダムが7割程度できたときでした、台風がきて縦通水管が木の枝や葉で目詰まりし水位が上昇して危険な状態でした。上司は「地主！裸になって腰にロープを付けて飛び込め！」でした。私は鶏飼の鶏になって縦通水管の周りの枝や葉を取っては捨て取っ

ては捨てました。下請けの人達も沢山いたのですが何故か私が鶏になったのです。

梅雨の頃でした盛土の中にヒューム管を敷設する為にドロドロの中で丁張り(工事の目印)を掛けている時でした、「おい！お前！ちゃんと丁張り掛けるんだぞ」と頭上のほうからの声、役所の係長でした、この泥の中でやっと丁張り掛けているのになんと居丈高な態度だろうと頭にきた私は「この泥のなかでちゃんとやれるならあんたやってみたら！」「なんだその態度は！上がって来い！」頭の中は真っ白で「このダジャグケシを成敗してやる」の一心で上がるや否や秋工仕込のタックルで押し倒し「やれるならやってみろ！」と拳を振り上げた、「主さんやめないか！」と私を後ろから抱きとめたSさんの足元を見たらその足で係長を蹴っていました。その日の内に営業所長、支店長が役所に呼ばれ陳謝し私は即刻退場となり新宿西口の地下駐車場に転勤となりました。約半年後その係長が転勤になり再びニュータウンに戻りました。

昭和45年4月26日私の誕生日に晴れて「ふさこ」と赤坂の日枝神社で結婚式を挙げたのでした。新婚生活は彼女の実家から車で10分ほどに10坪ほどの一軒屋を借りスタートしました。事務所に近いこともあり夜々々仲間が訪れ、夏の夜など「ミン、ミン」とセミが鳴いてうるさいので外を見ると2~3人が木に登り「今何してるの？」とニヤニヤ笑っている始末！本当に楽しくて、やるせなくて、せつない新婚生活でした。

お盆はたいいて私が田舎に女房子供を連れて帰るのですが、ある時親父が「たまにはおらたちが東京さえぐはてええな」とのこと、上野に迎えに行くのとタクアンの臭いをブンブンさせた大きなバックを背負ったお二人の勇姿！バックの中にはハムやマヨネーズも入っていました。家で一杯やっていたら「勝己！新宿に歌舞伎町とゆうおもしろい所があると聞いてきたが行ってみるか？」とのこと、「俺の行きつけのおでんのじゅんちゃんで行くか？」と話がまとまり二人で出かけました。そのころはカラオケは無く、流しのお兄さんがギターでリクエストに応えるものでした、私は「今日は俺の貸切だ！ママ良いな」と流しの兄さんごと4人で大盛り上がり、シコタマ飲んでしまいました。親父と店を出たところ区役所通の両側は〇〇〇風呂のネオンが一杯で「勝己この〇〇〇風呂の風呂だば、なたもだ風呂だべか？」と親父「おめだばこの風呂こさいてみてか？」と俺「あえ、土産話にいてみて」「俺の分もおめ払うな？」「OK、OKえぐべ」と酔っ払いの二人は〇〇〇風呂へと消えました。私はそれなりのことをして出てきましたが、親父はなかなか出てきませんでしたが、やがてハゲ頭から湯気を

出し「勝己！最高だ！天国だ！」と、のたまい仏様の表情で来るのです。本当に良い親孝行をしたものです。

田舎に帰る時にはデパートで母さんが「おどさん、おらこの服欲しな」「なして、エさ行けばなほでもあるべ」と親父、そのとき私は親父に「〇〇〇風呂の話母さんにしゃべるか？」と囁くと「ああ買え買え」と一件落着！。これ以来3年続けてお盆は東京に両親が来て親父と歌舞伎町にいきました。

我が家では、5月の連休には山菜パーティー、1月はきりたんぼ鍋パーティーをやります。倅のサッカー仲間の両親や女房のお友

達を呼んで、しどけ、ほんな、あいこ、みず、姫竹、によさく、とんぶり、いたどり、わらび、等山菜のおひたし、てんぷら、煮物と、きねもだし、さわもだし、のきのこ、エゴヤカスベ等食べきれないほど沢山の料理で盛り上がります。これらの食材は秋田の妹、中学の友達の嵯峨、高校大学の友達の佐々木から調達しました。嵯峨からは「そろそろだな、何日ごろおぐるから待ってろや」の電話、着いたと電話すると奥さんが出て「まずこの時期になると仕事ぶなげで山菜採りに夢中で本当にカマドケシだども喜んでもらええがったな」感謝々々の山菜パーティーでした。



地主家の山菜パーティーの様子

# NSS

各種試験機・力計・製造・販売  
検査・校正・修理・改造(データ処理)  
公的機関(NK/JQA/JAMP)校正代行

## 株式会社 日本試験機製作所

〒146-0094 東京都大田区東矢口3丁目29番1号  
電話：03-3732-1678/3731-5549  
FAX：03-3732-1684  
E-mail：nss81@nifty.com

斉藤 靖宏 (昭和32年 機械科卒) 横田 忠 (昭和32年 機械科卒)

**PALSYS**



ISO9001 認証取得  
(品質管理及び品質保証に関する国際規格)

情報サービス事業者として、要求分析、要件定義、基本設計、詳細設計、環境設計・構築、運用設計、運用管理まで、ワンストップでサービス提供できる、システム構築会社を目指しております。

ソフトウェア開発 / システム構築 / システム運用 / インターネット、携帯電話、パソコン等を利用しての、御社の問題解決をご提案し、御社の利益向上へ貢献いたします。  
先ずは、お気軽に、ご相談ください。

株式会社 パルシス

代表取締役 須田 次彦 (昭和51年 電気科卒)

〒171-0033 東京都豊島区高田3-28-2ダヴィンチ高田三丁目3階別館  
TEL:03-5949-4911 e-mail:palsys@palsys.co.jp URL:www.palsys.co.jp